

韓国向け

# 12月輸出単価102円に急騰

## 廃蓄電池、半年ぶり 8000トン台

財務省が30日発表した貿易統計速報によると、韓国向けの廃バッテリー（使用済み自動車用鉛蓄電池）の12月輸出平均単価は前月と比べてキロ12・2円ア

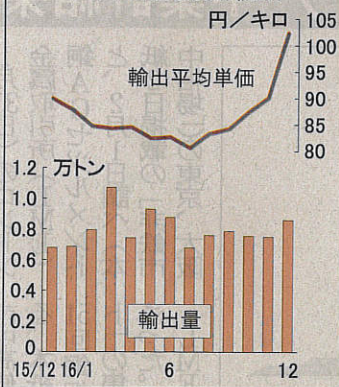
ップの102・3円に急騰した。鉛相場上昇を受け、1年4カ月ぶりの大台に達した。輸出量は前月比14・7%増の8613トと、6カ月ぶりに8000ト

台に増加した。鉛リサイクル原料となる廃バッテリーは、二次精錬業が盛んな韓国向けに、国内発生量の3〜4割もの数量が輸出されている。8月

以降は7000ト台半ばでほぼ横ばいだったが、12月は6月の8765ト以来の高水準となった。輸出平均単価は2015年初めから16年前

半にかけて下落していた。ロンドン金属取引所（LME）の鉛相場下落や、韓国が米国や中東から安定調達ルートを構築したため、日本に対する輸出圧力が緩んだことが背景にあったが、7月の80・6円で底打ち後は5カ月連続で上昇していた。12月の輸出平均単価

韓国向け廃バッテリー  
(出典:財務省貿易統計)



の前月比12・2円(13・5%)高は過去最大の上げ幅。LME鉛相場が前月、米国大統領選後に一時20%急騰したことが、輸出平均単価にも反映された。数量が増加した通り、先高観から韓国側が買い急いだことも、単価急伸を後押ししたとみられる。

主な港別の輸出品と単価は、東京港2145ト(102円)、大阪港8888ト(98・2円)、清水港743ト(100・6円)、門司港635ト(103・1円)、広島港535ト(108・1円)、横浜港460ト(95・2円)、戸畑港425ト(105円)、苫小牧港423ト(105・6円)。大阪・横浜港以外は軒並み100円を上回った。

なお、2016年の年間輸出品は前年比28・5%増の9万69983トで、14年の9万7634トに次ぐ過去2番目の高水準だった。港別で見ると東京港2万4082ト、大阪港1万1253ト、清水港9762ト、横浜港7021ト、門司港6876ト、石狩港6004ト、広島港4216ト、戸畑港4210ト、博多港3288トと続いた。